

八点

② 囀や足に馴染みしス一カ

藤本 友子

春になると不思議と野山の散策に出かけたくなくなります。そんな時、私にとって足にびびったりの靴であることが大切。「囀」とり合わせ、明るい軽やかな雰囲気を出そうと思いました。

② 封を閉ず五月の風を少し入れ

小川名梅乃

目に沁みるような五月の新緑の中、娘が誕生日を迎えました。誕生日祝の言葉を、今流行のスマホにて届けようと思いましたが、自筆で認めようどべを取りました。母親の思いをいっばいにして封をしました。封を閉じるとき、さわやかな五月の風が入って封書がふくらみましたが、その時の思いを一句にしました。

七点

④ 蝌蚪群れて水に映りし日をかじる

増田 守

一群のかたまりとして蝌蚪が池の淵にいた。淵のその部分は日当たりが良く、水面には太陽がきらきら映っていた。太陽の像の上を群れ動く蝌蚪は、競い合うように太陽の輪郭を齧っているように見えた。太陽光は地球上の全ての生物にとって命を維持し、命を継承していくのに必須不可欠なものである。蝌蚪が生命の源泉とも言える太陽のエネルギーに食らいついているのである。

六点

② 行く春や名もなき山の曾良の墓

柏尾のり子

芭蕉没後の曾良については、不勉強で良く知らなかったのですが、四月末に長崎県志岐に旅行した時「曾良の墓」の標示を見て、驚いて寄ってみました。曾良は幕府巡見使として志岐を訪れ、そこで客死したことを初めて知りました。寄宿していたという「中藤家」の墓所の一隅に、苔むした小さな墓碑を見つけ、俳句の上達を願って手を合わせてきました。

① 山城の深き空堀すみれ咲く

岩野ヤエ子

西暦千五百年ころ、築城された箕輪城跡(現在の高崎市箕郷町)を訪ねた時に作句したもので

す。建物は全く残っていませんが、大規模な石垣や幅三十メートル、深さ十メートルの空堀がそのまま残っており、私が行ったときは丁度若草がもえはじめ、人も殆ど居らず静かで当時の様子が偲ばれました。場内の案内板によると、城主は領民を大切にしたり、領民は城を大切に、その精神が今も受け継がれているとのこと。昭和六十二年に国指定史跡となっています。芭蕉の「夏草や

兵どもが夢の跡」が思い出されました。

① 柳絮飛ぶ徒党を組みしオートバイ

増田 守

一六号バイクを車で移動しているとき、オートバイの一団が次々と追いついて行つた。昔風に言えは暴走族である。一人乗りと二人乗りの混成部隊であり、姿かたちから言えば、孤高のライダーには到底見えない集団であるが、昔の暴走族のように過度に危険な運転行為をこれ見よがしにするわけではないが、集団が通り過ぎるまで、心が落ち着かなかつた。二台三台と組なって追い抜いて行くオートバイは、心象的には風に吹かれる柳絮のように思われた。徒党を組んで意気がついているライダ

ーも個別に観れば、気の弱い若者かも知れない。

五点

① 夢かたる子は早口に花の道

原田 清子

この句は五年位前の孫のこと。一人であてもない散歩をしていた時のこと、桜はもう終わりの頃でした。何やら色々とりとめもない話をしながら散歩がついたその時、いきなり大きくなつたら二をやりたいな……と、私は思わず頑張つてねと言つた。それが今中学生になり二に明け暮れているそうです。『夢はかなつたのだ』

桃の花母にもありし少女の日

恩田 才美

母への或るオラジゴ。時代を働き賣いた無私の人でしたが、ときとして侍む後姿も。

四点

② チェーリングア赤見拳を開きけり

藤本 友子

今春、待ちに待つた孫が誕生しました。初対面の赤児の固くにぎっている拳をそつと開いてみた時の感想です。柔らかく小さな拳とチェーリングアの開花とが重なりました。

② 鉢割る蘭の生命の溢れけり

小川名梅乃

ヒガバナ科の君子蘭は、観賞用で赤橙色の花を咲かせます。鉢にいっぱいになり露地に下して上
げたいと思いましたが。鉢から取り出そうとした時、鉢が割れて太い根が沢山現れました。まるで、蘭
の生命が満ち満ちているように溢れ出しました。

落ちてなお妍競い合ふ花椿

安中 忠夫

椿は一ひら一ひら散るのではなく、花全体がぼとりと落ちて、いかに静かである。落ちてなお、
上を向いて形をどめて妍を競っているように見える。椿は、漢名ではなく春に咲く花木という意
味で、日本で作られた字だそうである。

藤の花好みがちがふ三姉妹

稲葉 幸

母曰く、「三人の女が東になると嫁さんが可哀想だからね」を、守っている由ではありませんが、三
人姉妹が行動を共にすることはありません。が、冠婚葬祭は、「よく揃うね」と、子どもたちに笑わ
れます。下度、宇都宮へ法事に行った時の句です。
私と違い次妹は、着物が好き。作るのも、市松人形に四季の着物を着せ替えたりとか、末妹はダ
ンスが大好きな子です。私は高校二年夏に山の楽しさを知り、また、登山グループの始まりでもあり
ました。
子連れで大山、丹沢と、極めつきは、小学生四人と富士山を下山中に二人を迷子にし、今でも背
筋が寒くなる思いです。体力のある頃は「桜蔭ハイキング」は楽しみで、参加するようにしていま
す。